

令和元年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 よるべさ	代表者	小野田 直子	法人・事業所の特徴	南北に 70 キロ以上ある幌加内町の中でも市街地から 30 キロ以上離れた地域にある事業所です。介護サービスが市街地に集中しており、高齢化が進んだこの地域では除雪や病院が遠いなどの事情から地域を離れるしか選択がなかったのですが住み慣れた地域で最後まで過ごしたいという思いを支えていこうと平成 24 年に開設されました。登録者だけでなく、地域住民も対象とした、体操教室や買物ツアー、地域食堂などの行事を実施しています。
事業所名	スマイルホームえん	管理者	蔵前 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1		12		1			3		17

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①自己評価の改善計画については、職員全員が意識するために、進捗状況を中間期に、職員全員で確認する。出来ていない点は、なぜ、出来ていないのか原因を探り、計画を達成できるようにする。</p> <p>②9月の運営推進会議に報告する。</p> <p>③廊下などに、小規模多機能についての内容が分かりやすいように説明する展示をする。</p>	<p>①中間期に改善計画の進捗状況の確認を行い、達成するための計画を立て、実施した。</p> <p>②運営推進会議で報告し、意見をいただいた。</p> <p>③廊下に展示はできなかったが、各老人クラブで、小規模多機能について、説明する機会が持てた。</p>	意見は特になし。	<p>①自己評価の改善計画については、職員全員が意識するために、進捗状況を中間期に、職員全員で確認する。出来ていない点は、なぜ、出来ていないのか原因を探り、計画を達成できるようにする。</p> <p>②9月の運営推進会議に報告する。</p> <p>③小規模多機能についての内容が分かりやすいように老人クラブや運営推進会議で説明する。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>①外部講師による接遇の研修実施</p> <p>②センサーについての協議</p> <p>③季節行事の一覧を作成し作品づくりに向けての準備の計画を立てる。</p> <p>④保育所と連携し、利用者様と作品を作ったり、行事を行う。</p> <p>⑤玄関をいつもきれいにする。</p>	<p>①接遇研修は7月に実施した</p> <p>②センサーについてはえんの玄関のところにセンサーマットを置いて様子を見ている</p> <p>③④季節行事の飾り物を利用者様や保育所と一緒に作成し掲示している</p> <p>⑤玄関掃除は意識したが玄関前、階段の除雪などできなかった</p>	意見は特になし。	<p>①季節行事の一覧を作成し、担当者を決め作品作りの計画を立てる。</p> <p>②保育所と連携し、利用者様と作品を作ったり、行事を行う。</p> <p>③玄関も、毎日掃除する。</p> <p>④センサーや防犯カメラについてはどのようなものが良いのか、運営推進会議で検討する</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<p>①老人クラブ参加は、毎月担当を決めて職員全員が参加する。</p> <p>②参加した職員は、報告書を作成し他の職員に周知する。</p> <p>③職員紹介の掲示物を新しく作成する。(職員変更あり) 職員のコメントを入れる。</p> <p>④地域以外から通っている職員が、何らかの行事に参加できるようにシフトの工夫をする。</p>	<p>①老人クラブへの参加は年間で決めている。計画通りとはいかないが必ず職員の参加がある</p> <p>②参加した職員が活動報告書を作成し周知している</p> <p>③職員紹介の掲示物の作成はできた</p> <p>④地域以外から通っている職員が何かしらの行事に参加できるようにシフトを組むようにした。 (山菜食堂など参加できたものもある)</p>	・三自治区行事に複数名の職員が来られているという意見や、あいさつの件で「人によりあいさつのない職員がおる」という意見があった。	<p>①老人クラブや地域行事へは今まで通り職員全員が参加できるようにする</p> <p>②接遇の研修をし挨拶を重点的に行う</p> <p>③困りごとや相談を受けやすくするためよるべさ通信にて発信する。</p>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①引き続き、担当者会議に本人と関わりのある方に参加してもらい、意見をいただく。 ②利用者様が、地域の方と出かける機会をもてるように計画をたて、実施する。 ③地域行事、イベントへの参加を実施する。 ④清掃活動に利用者と一緒に参加する。</p>	<p>①担当者会議には本人と関わりのある方に参加してもらっている ②老人クラブとの旅行は企画できなかった ③④清掃活動をはじめ花植えなど地域の行事に参加している</p>	<p>個の状況に応じて配慮されていると思うとの意見があった。</p>	<p>①引き続き、担当者会議に本人と関わりのある方に参加してもらい、意見をいただく。 ②利用者様が地域行事、イベントへの参加ができるようにする。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①会議前に議題を練り、具体的な課題を出して意見を出やすくする。 ②地域の困りごとは、会議の際に必ず聞き取る。事業所からも、老人クラブなどで話されていたことなど、気が付いた点について投げかけ、話し合う。 ③多くの職員が会議に参加し、地域の意見をその場で聞けるようにするため、職員会議で参加するメンバーを決める。 ④助け合いネットワークの模擬訓練の計画を立て、実施する。</p>	<p>①月のテーマは決まっていたが意見を出しやすくするために企画書を作成すればよかった。 ②地域の困りごとなど会議の中で聞き取っている。事業所からも老人クラブなどで話されていたことなど気が付いた点について話し合っている ③中間期までは参加する職員が固定していたが、見直しにより全員が順次参加するようにした。 ④助け合いネットワークの模擬訓練が実施できた</p>	<p>意見は特になし。</p>	<p>①意見を沢山いただけるように会議前に企画を立てる。 ②会議では地域の困りごとを聞き取る。 ③再度、助け合いネットワークの模擬訓練の計画を立て、実施する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>①避難訓練の実施に、地域の方も参加してもらうために、事業所でたてた計画を運営推進会議で確認してもらい、意見をいただく。 ②防災備蓄品の管理は職員全員が把握できるようにするために、一覧表を作成する。</p>	<p>①6月の避難訓練をよるぞっぷ実施の日に合わせて地域の方へも参加してもらうことができた。11月の避難訓練は運営推進会議にはかり沢山の意見をいただいた。 ②防災備蓄品の一覧を作ったが、スペースの見直しにより配置が変わってから作り直していない為、職員全員が把握できる状況にはなっていない。</p>	<p>意見は特になし。</p>	<p>①消防の指導を受け防災計画を立て直す ②防災備蓄品を常に把握しておくために、一覧表を作成し定期的に残数などの、管理をする。</p>

外部評価実施の進め方について

今年度の外部評価については、コロナウイルスの感染予防のため、集まって意見をもらわず、以下のような実施方法をとりました。

- ①外部評価委員 14 名に、事業所自己評価ミーティング様式、事業所内での外部評価の流れ、参加した職員名などの資料を添付して、地域関わりシート①を配布した。
(2月14日)
- ②地域関わりシート①を回収し、アンケートの集計と、意見をまとめた。
(2月21日)
- ③管理職にて総括の改善計画案を立て、職員会議にて確認した。
(3月4日、3月15日)
- ④決定したものを、委員に配布し、意見を個別にもらう。
(3月17日～3月21日)
- ⑤意見集約後、別紙の総括表を作成し職員会議で周知した。
(3月22日)